

令和3年12月7日

定例山行報告 湯来冠山

報告者(担当者)部谷正人

参加者:大原(功)、大原(賀)、総谷、川畑、木下、小早川、小林、迫田、高本、二井原、平田、藤井、部谷(三)、山本(夫)、山本(美)、好岡、部谷(正・CL) 17名

山行日:令和3年12月5日(日)

行程 :呉駅前(7.50)→(クレアライン・広島高速・魚切ダム・国道 433 号)→(9.10)湯来
ロッジ(9.30)→登山口(9.50)→水タンク(10.00)→(12.15)冠山頂上(12.40)→
(14.40)湯来ロッジ(15.40)→呉駅前(17.00)

国道 433 号を進み広島市湯来支所前の水内川に掛かる橋を左折し、国道 488 号を湯来ロッジに向かう。道路脇の所どころに“風力発電 断固反対”の幟が立ててある。湯来ロッジの駐車場で川畑、小林さんと合流。

登山の支度を終え、部谷(担当者 CL)が冠山登山計画及び登山中のコロナ対策を説明、さらに“広島西ウインドファーム事業”の概要 と市間山・立岩山～もみのき森林公園～冠山地域の地図を配布し、風力発電事業が西中国山地の豊かな自然環境と景観を損ない滅失する恐れがあるので、広島県連もこの事業に反対していること等を説明した。

国道 488 号の旧道を 20 分歩き、冠山登山口に到着。分かりやすい登山口の標識と行程時間の標識を確認し、舗装道路を 10 分歩いてステンレス製の大きな水タンクがある広場に到着。いまま地域の上水道の水源として使用しているのだろうか。小休止のあと CL を先頭に狭い登山道に入って行く。登山道はシダや倒木が邪魔し、急坂のため歩く速度がだんだんと遅くなっていく。長い杉林を抜け 11 時 30 分頃、西に伸びる尾根に到着した。ここで 2 名が引き返すことになり、ゆっくりと事故の無いよう注意を促し、小休止ののち 15 名で頂上を目指し出発した。

尾根道は予想以上の勾配が続き、頂上直下ではロープを頼りに濡れ落ち葉の急坂を登り、12 時 15 分頂上に到着した。

周りの木々は落葉し、夏場には見通せない西方向にもみのき森林公園(小室井山)、雪をかぶった吉和冠山、北方向に十方山、恐羅漢山、聖山、高岳等を目視確認できた。所どころに雪が残っており、風が有り寒い。集合写真を撮り、雪が残った笹の上で急いで弁当を食べ終え、下山を始めた。

おおよそ 2 時間で湯来ロッジに到着し、先に下山し入浴を済ませた2名と合流した。

冷えた体を湯来温泉で癒し、帰路を急いだ。

